



しろじぎんたてしまはぎくものすもようぬいはく
白地銀豎縞秋蜘蛛巣模様縫箔

江戸時代 18 世紀

【展示作品】59 件（前後期展示替えあり）

企画展

「幽玄への誘い—能面・能装束の美」

2025 年 4 月 15 日(火)～6 月 29 日(日)

公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館

* 展示期間の表記がない作品は通期展示

* 所蔵者の表記がない作品は大倉集古館所蔵

【概要】

室町時代に大和猿楽の観阿弥・世阿弥親子によって大成された「能楽」は、その後、幕府や諸大名の保護のもと、江戸時代に至って「武家の式楽」としての地位を確立しました。式楽であるがゆえに、その内容は格調高く幽玄であると同時に、そこで使われる能装束は雅で華麗な趣を湛え、見る者の目を楽しませてくれます。当館では、因州(鳥取藩)池田家伝来の能面と備前(岡山藩)池田家の能装束を多数所蔵していると同時に、久留米旧藩主有馬伯爵家旧蔵といわれる狂言面もコレクションに含まれております。今までも能面・能装束に重点が置かれた展覧会が多く開催されてきましたが、この度は、狂言にやや焦点をあてた展示となっています。能関係では約 5 年ぶりとなる本展では、修理が完了した「紅白段業平菱菊模様唐織」と「紫地葡萄鳶模様長絹」を公開すると同時に、能・狂言の演目を描いた絵画資料や能道具などの当館所蔵の作品を中心に展示致します。

◆1 章 幽玄の美—能

室町時代 14 世紀に成立した能は、面と、華やかで美しい装束を着装し、専用の能舞台で謡(セリフと歌)と囃子(楽器)とともに上演される歌舞劇です。内容は人間の哀しみや怒り、懐旧や恋慕の情などを描いた、悲劇が多いです。そして「武家の式楽」として格調高く幽玄な舞に用いられるその装束類は、色鮮やかで上質な絹糸を潤沢に用い、高度な技術で制作され、豪華な趣をたたえています。当館が所蔵する能装束は、備前岡山藩主池田家の売立時に大倉喜八郎が購入し、当館に寄贈したものです。現在、林原美術館所蔵の能装束コレクションと合わせることで、備前池田家旧蔵の能装束の内容をうかがうことができる点で大変、貴重なものです。



あきぎちやだんこうしつたもようからおり
1 浅黄茶段格子鳶模様唐織 江戸時代 18 世紀

紅色をひかえた唐織は、「紅無」と称され、中年以上の女役(うわぎ)として用いる。茶に浅葱色を組み合わせた段替地は、渋めでありながら粋な色彩感覚である。総模様として織り出した間隔の不均一な格子は、無機質でありながら変化のある諧調を生み出している。格子模様と浮織りによる立体的で、伸びやかに広がる鳶の模様とは、対照的でありながら見事に調和している。



2 紅地籠目牡丹蝶模様唐織 江戸時代 18世紀(前期展示)

破れ籠目かごめの隙間に牡丹と蝶の戯れる様子を色とりどりに散らしている。揚羽蝶あげはちようはその姿の良さから、蝶の中でも文様に多用され、不死不滅の象徴として武家の紋章にも採用された。百花の王であり、富貴の象徴とされる牡丹と組み合わせ、武家の繁栄を願う吉祥の文様といえる。唐織は女役に用いる最も豪華な装束で、紅を使用した唐織は「紅入」と称し、若い女役うわぎの表着として用いる。



3 紅白段業平菱菊模様唐織 江戸時代 18世紀(後期展示)

幅に約1:2の長短をつけた紅白の段替り地だんかわりを基調に、多彩な小菊が生い茂る風景を華やかに織り出している。段替わりとは、四角い区画を作り交互に異なる色柄を配する形式のことである。白地部分から上に向かって生え伸びる菊枝きくえだの長い一枝が、境界を越え紅地の区画にまで及んでいる点は、装飾性に拘泥せず、生き生きとした写実性をそこに意識させるものがある。

★ 繫岡鑿一しげおかけんいち 「能画」のうえ 20枚1組 紙本着色 昭和51年(1976)頃



4 【能】しやくきよう 石橋



5 【狂言】うそふき 嘘吹

繫岡鑿一(1895-1988)は、大正11年(1922)に東京美術学校日本画科を卒業後、帝国ホテルのフランクロイドライト建築事務所設計部に勤務し、以後川奈ホテル、赤倉観光ホテルのインテリアやその他美術面を担当し、1960年のホテルオークラ(現在のオークラ東京)建設に際してはホテルオークラ意匠委員会の一員を務めました。

この能画は昭和48年(1973)より在籍していた大倉集古館の主任学芸員時代に、昭和52年(1977)に開催された展覧会に出陳された能装束を能と狂言の役柄に当てはめて描いた、記録としても資料的価値の高い作品です。



6



7

6・7 横山大観「夜桜」6曲1双 紙本着色 昭和4年(1929年)(前期展示) (6左隻) (7右隻)

満開の山桜が篝火によって暗闇の中に浮かび上がる様は幻想的で、あたかも夜桜を背景とした新能の舞台のようです。本作品は昭和5年(1930)、ローマで開催された日本美術展覧会の出品作です。この展覧会は大倉財閥2代、大倉喜七郎が巨額の資金を出して実現したものです。制作にあたり大観は上野公園の桜を写生し、途中幾度かの大幅な描き直しを経て本作を一気に仕上げたと言われています。日本の美の粋を欧州へ伝えようとした大観の意気込みが感じられる大作です。



8 白地銀豎縞秋蜘蛛巣模様縫箔 江戸時代18世紀

本作は白の綾子地に、摺箔で銀の豎縞を表す。鮮やかに咲き乱れる萩を、朱、萌黄、浅葱、紫などの多種の絹糸を使用して刺繍で表し、その隙間に蜘蛛の巣を墨によって手描きしている。肩から両袖に向かい横に広がる萩と右裾に群生する萩とのリズムカルな配置と、白地におかれた銀箔の豎縞との対比が動と静の空間を生み出し、卓越した意匠となっている。



9 紫地葡萄蔦模様長絹 江戸時代19世紀

紫の絹地に金で葡萄の葉と蔓、蔦の葉を織り出している。上部に3つある写実的な葡萄の葉と蔓の文様の内、右袖と中央のものは同じ模様であるが、左袖のものは左右を反転させて変化をつけている。下部には大小の蔦の葉の文様をリズムカルに配している。広袖の単衣で優美に舞う姿にふさわしい。

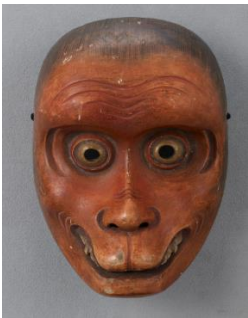


10 濃萌葱地輪宝模様袷狩衣 江戸時代18世紀

濃い萌葱色の縹子地に、大小ある輪宝の模様を織り出した金襴の狩衣である。輪宝は、古代インドの車輪形の武器を象ったもので、仏教においては仏法のはじまりと護持の象徴とされ、能装束の意匠としては、超越的な力を持つ役柄に使用される。老木の精や風雅な貴人役に使用される単狩衣に対し、裏地を付けた袷狩衣は天狗・鬼神・大臣など雄偉をそなえた役柄に用いられる。

◆2章 喜怒哀楽の妙一狂言

能舞台において能と能の間で演じられる狂言は、重々しさと優美さを旨とする悲劇である能と対照的に、中世の庶民の日常生活を風刺と滑稽さによって描きだしたセリフが中心の喜劇です。その演技は現実の動作よりも大きく誇張され、笑いを通して人間を描きだします。狂言では面を用いない場合も多いのですが、能と同様に鬼・神・動物・精霊などに扮する際には面をかけます。また、女の役は基本的に面を用いず、素顔のままで演じますが、「乙」という女の面を使うこともあります。乙の面の特徴は低い鼻、しもぶくれの頬にあり、愛嬌や可愛らしさを感じさせます。また、当館所蔵の狂言面は旧久留米藩主の有馬家に旧蔵されたものと伝えられ、大名家伝来の狂言面がまとまって所蔵されている点も貴重です。



11 狂言面 猿 江戸時代 17-19 世紀

様々な動物が登場する狂言には、動物を模した多様な面がある。猿の面は、幼い役者の初舞台の演目となる『鞆猿』の子猿の役や、婿猿・舅猿・姫猿・子猿らが登場し、婿入りの祝言の様子を演じる『猿智』などに用いられる。当館所蔵の狂言面の内、猿の面は8面と割合が高いが、『猿智』といった登場する猿の数が多い演目があったためと考えられる。久留米藩有馬家伝来。



12 狂言面 狐 江戸時代 18 世紀

狐の面は、狂言の大曲『釣狐』の後シテのみに用いられる。シテ（演者）は、面だけでなく狐のモンパ（動物に扮するぬいぐるみ）も着用する。狂言のあらすじは、猟師に一族を捕らえられた老狐が僧に化け、殺生をやめるように猟師を説得するが、その帰り道に、好物の餌がつけられた罠に、そうと知りつつつかかってしまうという話である。

久留米藩有馬家伝来。



13 茶地斜縞模様素襖 江戸-明治時代 19 世紀

国立能楽堂所蔵(前期展示)

狂言に使用する素襖は、武家で無位無官の者が着用する素襖になった上下共裂の装束で、下の袴は長袴となる。柿色に近い明るい茶地に細い斜縞が大胆に白く染め抜かれる。その斜縞も上下で角度を変えた機知に富んだ意匠となっている。胸と背と袖、長袴の腰板と相引きに齊紋（ナズナの葉をモチーフとした家紋）が据えられる。



14 縹地源氏車青海波模様素襖 江戸時代 19世紀

国立能楽堂所蔵(後期展示)

源氏車文は牛車の車輪で、その形が優美であることから、平安時代から工芸品の意匠に用いられた。また乾燥による車輪の干割れ防止のため川に浸けたといわれ、その波間に浮かぶ様を片輪車と呼び工芸意匠に表されることも多い。波を連想させるかのように、源氏車文を青海波模様の如く詰めて配置している点は、機知的で洒落た意匠といえよう。

◆3章 因州池田家伝来の能面

当館の能面は大部分が因州鳥取藩主の池田家旧蔵であることが知られています。当館の能面は狂言面とともに、明治から昭和にかけて活躍した実業家で、昭和初期に当館の監事を務めた大橋新太郎（1863-1944）により、昭和3年（1928）当館に寄贈されました。因州池田家は能装束の旧蔵者である備前池田家の分家にあたり、同族の大家に伝来した能面と能装束が、今日当館で所蔵されていることにも不思議な縁を感じます。



15 能面 増女 江戸時代 18世紀

室町時代の田楽の名手、増阿弥が創作したと伝えられることから「増女」と称される。女面では、小面が華やいだ若さを表出するのに対し、増女は端正で清冷な美しさが特徴となっている。天人の舞を舞う演目『羽衣』の天女、女神、神仙女などの高い品格の役に用いられる。面裏の朱漆書と焼印から、出目満水（?～1729）が享保7年（1722）に納品したと推定される。因州（鳥取）池田家伝来。



16 能面 大飛出 江戸時代 18世紀

大飛出は神の面で、名前は眼球が大きく飛び出していることに由来する。眼に大きな金環を嵌め、口を大きく開け、口中に真っ赤な舌を突き出し、顔全体に金泥が施され、神の厳めしさを表現している。雷神や蔵王権現の役柄で用いられる。面裏の朱漆書から、出目洞水（?～1729）が喜多十太夫家の本面を享保10年（1725）に写したものであることが判明する。因州（鳥取）池田家伝来。

いざな

【展覧会名】 企画展「幽玄への誘い—能面・能装束の美」

【会期】 会 期：2025年4月15日(火)～6月29日(日)

前期：4月15日(火)～5月18日(日)

後期：5月20日(火)～6月29日(日)

【開館時間】 10：00～17：00（入館は16：30まで）

【休館日】 休館日：毎週月曜日（ただし5/5は開館）、5/7（水）

【入館料】 一般1,000円、大学生・高校生 800円、中学生以下無料

※同会期中のリピーターは500円引き（一般、大学生・高校生料金お支払いの方のみ）

※20名様以上の団体は500円引き

※障がい者手帳、被爆者手帳をご提示の方とその同伴者1名は無料

※お着物（和装）でご来館の方は300円引き

※ミュージアムパスポート5,500円

割引併用不可

【主催】 公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館

【協力】 株式会社ホテルオークラ、特種東海製紙株式会社、大成建設株式会社

【会場】 公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-3（オークラ東京前）

TEL:03-5575-5711、FAX：03-5575-5712

<https://www.shukokan.org/>

【アクセス】

- ・東京メトロ南北線 六本木一丁目駅中央改札口（泉ガーデン方面）より5分
- ・東京メトロ日比谷線 神谷町駅4b出口より7分
- ・東京メトロ銀座線・南北線 溜池山王駅13番出口より10分
- ・東京メトロ日比谷線 虎ノ門ヒルズ駅A2a出口より8分

【展覧会に関するお問い合わせ】

（広報担当）高野明子（学芸補助）（takano.a@shukokan.org）、

四宮美帆子（主任学芸員）（shinomi@shukokan.org）

※2人宛にご連絡下さい

（展覧会担当）平塚泰三（学芸部長）（hiratsuka.t@shukokan.org）

（■を@に変えてください）

電話：03-5575-5711、FAX：03-5575-5712

【イベント】

■講演会

「能を舞った大名たち—大倉集古館のコレクションから—」
講師：宮本圭造氏（野上記念法政大学能楽研究所所長・教授）
日時：5月24日（土）14：00 から（約1時間）
会場：大倉集古館 地下1階ホール
聴講料：無料（ただし入場には入館券が必要です）
定員：60人（事前申込制、先着順）
お申込み：大倉集古館 TEL:03-5575-5711（月～金 10:00~17:00）

■イベント

「六条山カルテットコンサート—雅の夕べ」
演奏：〈箏〉 大谷祥子・中野智美(箏曲家)
 〈尺八〉 岩田卓也(尺八演奏家) 〈チェロ〉 向井航(チェロ奏者)
日時： 6月13日（金）18:00 開場 18:30 開演
会場：大倉集古館展示室
料金：4,000円
定員：90人（事前申込制、先着順）
お申込み：大倉集古館 TEL:03-5575-5711（月～金 10:00~17:00）

■担当学芸員によるギャラリートーク

担当：平塚泰三（当館学芸部長）
日時： 4月30日（水）、5月16日（金）、6月17日（火）各14:00から（約1時間）
会場：大倉集古館 展示室 1階展示室EV前にお集まりください。
お申込み：不要（ただし入場には入館券が必要です）

企画展 ^{いざな} 幽玄への誘い—能面・能装束の美
報道内覧会のご案内

2025年4月14日(月)

(受付) 13:45～ (作品解説等) 14:00～15:00 (終了) 16:00

担当学芸員より展覧会のご説明や作品解説を行い、ご質問にお答えいたします。

展示室内をご撮影いただけます。

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAX かメールにてご返信ください

FAX 03-5575-5712

E-mail takano.a●shukokan.org (●を@に変えてください)

大倉集古館 高野明子 宛

■ご担当者様情報

貴社名	
ご担当職・ご氏名	
電話番号・FAX 番号	
メールアドレス	

■参加者(上記以外)

ご所属・役職名	ご氏名

【会場】大倉集古館 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-10-3 (オークラ東京正面玄関前)

- ・東京メトロ南北線 六本木一丁目駅改札口(泉ガーデン方面)より5分
- ・東京メトロ日比谷線 神谷町駅 4b 出口より7分
- ・東京メトロ銀座線・南北線 溜池山王駅 13 番出口より10分
- ・東京メトロ日比谷線 虎ノ門ヒルズ駅 A2 出口より8分

※やむをえない日時や内容の変更・中止をする場合がございます。ご来館前に当館 HP をご確認ください。

企画展 能面・能装束展 広報用画像申請書

宛先：大倉集古館 学芸部 高野明子 宛
 FAX：03-5575-5712
 E-mail：takano.a■shukokan.org (■を@に変えてください)

■ 図版使用に際しての注意

- ・本展覧会の紹介を目的とする内容にのみご使用ください。
- ・ご申請いただいた記事・番組に限り、本展の広報用画像の使用が可能です。
- ・使用後のデータは破棄してください。・ウェブ上で使用する場合は、コピーガードを施してください。
- ・画像への文字のせ、加工などを希望する場合はご相談ください。
- ・図版使用の際は必ず作品キャプションを載せてください。
- ・画像使用の掲載誌や放送 DVD は 1 部ご惠贈ください。

希望	No	作品
	1	浅黄茶段格子蔦模様唐織 江戸時代 18 世紀
	2	紅地籠目牡丹蝶模様唐織 江戸時代 18 世紀(前期展示)
	3	紅白段業平菱菊模様唐織 江戸時代 18 世紀(後期展示)
	4	繫岡鑿一「能画《石橋》」20 枚 1 組 紙本着色 昭和 51 年(1976)頃
	5	繫岡鑿一「能画《嘘吹》」20 枚 1 組 紙本着色 昭和 51 年(1976)頃
	6	横山大観「夜桜」(左隻)6 曲 1 双 紙本着色 昭和 4 年(1929 年)(前期展示)
	7	横山大観「夜桜」(右隻)6 曲 1 双 紙本着色 昭和 4 年(1929 年)(前期展示)
	8	白地銀豎縞萩蜘蛛巣模様縫箔 江戸時代 18 世紀
	9	紫地葡萄蔦模様長絹 江戸時代 19 世紀
	10	濃萌葱地輪宝模様袷狩衣 江戸時代 18 世紀
	11	狂言面 猿 江戸時代 17-19 世紀
	12	狂言面 狐 江戸時代 18 世紀
	13	茶地斜縞模様素襖 江戸-明治時代 19 世紀(前期展示) 国立能楽堂所蔵
	14	縹地源氏車青海波模様素襖 江戸時代 19 世紀(後期展示) 国立能楽堂所蔵
	15	能面 増女 江戸時代 18 世紀
	16	能面 大飛出 江戸時代 18 世紀

ご住所		
貴社名		
ご担当者名		
TEL/FAX	TEL:	FAX:
E-mail		
媒体名		
発行放送予定日		